

## 第 11 回 日韓 NCC 協議会 共同声明

### 平和と和解の使徒としての教会の役割(Ⅱコリント 5:18)

「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。」(Ⅱコリント 5:18 新共同訳)

韓国基督教教会協議会(NCCK)と日本キリスト教協議会(NCCJ)は 2025 年 6 月 11 日~13 日(水~金)、大韓民国のソウルに集い、「平和と和解の使徒としての教会の役割」という主題で第 11 回日韓 NCC 協議会を開催した(韓国側 47 名、日本側 23 名)。2019 年の第 10 回日韓 NCC 協議会(日本の東京で開催)で確認した共同の課題を引き継ぎ、本協議会における私たちの立場を明らかにする。

朝鮮半島独立・解放と日本敗戦 80 年、日韓条約 60 年を迎える 2025 年、北東アジアは複合的な危機に直面している。最近、日米韓 3 国は「拡大抑止の実質化」と「抑止力の強化」を掲げ、大規模な合同訓練と軍事情報のリアルタイム共有を継続している。特に軍事訓練は周辺国の危機意識を刺激している。さらにそれらは日本と韓国の軍事基地周辺住民の日常と安全をも深刻に侵害している。私たちは、武力による平和ではなく、相互信頼と対話こそが真なる平和構築の道であると確信する。日韓両政府は、米国中心の安保同盟に依存するのではなく、むしろ北東アジア平和体制のために協働するパートナーでなければならない。私たちは日本の憲法 9 条を堅持すること、協力と共存の道を目指すことと、朝鮮半島の不安定な停戦体制を終結させ、平和協定を結ぶことこそ、平和と和解の使徒としての教会の役割であることを信じる。今こそ、日韓両教会と市民社会の連帯、すなわち民衆の連帯を通じて「剣を打ち直して鋤とし」(イザヤ書 2:4)、いのちと平和と正義に向けての共なる歩みへと転換すべき時である。

特に私たちは、日本軍「慰安婦」問題をはじめ、戦争と植民地支配下における弱者である女性に対する暴力の歴史が否定され、被害者に対する嫌悪と歴史の歪曲が繰り返されていることについて深い懸念を表明する。これに対して教会は、この様な歴史的不正義に対して沈黙し、向かい合ってこなかった過ちを悔い改め、記憶と正義、責任を重んじる信仰に従って平和の神の前で真実を直視し、平和の使徒として告白し応答しなければいけない。

さらに今日両国において、オンライン上での性的搾取、性犯罪・性的暴行、ヘイトスピーチなど、女性と性的少数者に対する構造的な差別と暴力が依然として続いている。それは教会においても例外ではない。教会は被害者の前で沈黙したり、事件を隠蔽したりすることが構造的な罪であることを告白し、被害者中心の公正な解決のために責任を持って対応しなければならない。神にかたどって創造されたすべての人が、そのジェンダーに関わりなく尊厳を尊重されながら生きることができる社会を築くことが教会の役割であり、被害者と共に行動する教会だけが、真の平和と和解のための使徒として立つことができるだろう。

原子力発電はクリーンエネルギーではない。私たちは東京電力福島第一原子力発電所が引き起こした悲劇を忘れることなく、この危険要素は誰にも負わせることができないことを改めて告白する。また、日本政府の福島汚染水放出は海洋生態系を脅かす行為であり、教会はこれを強く批判し、再発防止のために国際的な監視と責任の履行を求めるものである。さらに、気候危機は不平等から生まれた地球規模の危機であり、韓国と日本は高炭素消費構造を維持してきた国として、再生可能なエネルギー体系への転換に応える責任がある。原爆投下 80 年の今年、私たちは、再生可能な自然エネルギー開発を通じて神の被造世界を保全し、原爆被害者に連帯し、非核化と脱炭素社会実現のために世界的な運動に積極的に参与することが教会の役割であることを改めて告白する。

日韓社会は依然として「嫌悪と差別」を「表現の自由」として正当化している。両国社会における移民の

搾取や、結婚移住女性、移民背景を持つ子どもや若者の現実には過酷である。特に日本社会においては、ヘイトスピーチ、在日韓国・朝鮮人と移民・難民に対する暴力事件は日増しに深刻化している。私たちは、すべての人間を平等に創造された神の摂理(ガラテヤ 3:28)に基づき、一部の利益のために弱者に犠牲を強要することは明らかな暴力であり、罪悪であることを強調し、神にかたどって創造された私たちの存在を認めることが教会の役割であることを告白する。

日韓社会が直面している超高齢化及び超少子化問題は、過度な競争をあおって人々の生活をますます不安定にし、社会的緊張と敵意を生み出している。それは、社会的弱者を嫌悪し、支配的でない文化を選択する人々を排除する新自由主義的な社会構造と結びついている。特に、青年世代は思うように仕事を見つけられない上、社会福祉と老人扶養の負担を背負うことになり、社会的剥奪感による無気力に陥っている。私たちは、教会がこの課題を深く受け止め、他者に向かって自分を開いたイエス・キリストの模範に従い、すべての存在を歓待し、尊い存在として生きることができるよう社会を変革するために連帯することが、教会の責任であることを告白する。

私たちは3日間にわたり、主題講演と討論に続き、部門別の発表と討論を行った。私たちは、北東アジアの平和と和解の使徒として、日韓両国教会の共同課題を確認し、急変する状況の中で依然として直面している問題について、次のような具体的課題を提示する。

### 第11回日韓 NCC 両国協議会声明書の付属文書 - 共同実践課題

1. 両国 NCC は、北東アジアの市民社会との連帯を通じて朝鮮半島平和体制を確立し、日本の憲法 9 条を堅持することを共同の課題とする。そのために、日米韓合同軍事訓練に反対し糾弾する声明の発表と市民との連帯を通じた共同行動を継続する。

2. 両国 NCC は「記憶との闘い」を通じて歴史を正しく記録することを共同の課題とする。特に日韓基本条約第 2 条に関して歴史的反省を深め、和解を促し、植民地時代の過去清算と正しい歴史認識を共有するために日韓教会が引き続き協力する。

3. 両国 NCC は、蔓延する性差別と性的暴力を克服し、ジェンダー正義を実現することを共同の課題とする。そのために、教団と教会内にジェンダー正義点検委員会等の設立を促し、既存の性差別問題対応機構と緊密に連携したり、その役割を拡張したりすることを推進する。

4. 両国 NCC は青年の主体的な活動を促進する環境作りを共同の課題とする。このため、青年平和教育プログラムを継続的に開発し、青年たちが主体的に交流できるよう積極的に支援する。

5. 両国 NCC は、神が造られた被造世界の保全を促す宣教を共同の課題とする。そのために気候危機と非核化に関する神学的省察を深化し、実践的な方向を模索する共同フォーラムを企画する。全世界の非核化運動に積極的に参与し、グリーン転換に向けての役割を担う両教会間のワーキンググループを組織し、随時協力する。

6. 両国 NCC は、差別のない社会を築くことを共通の課題とする。そのために、在日韓国・朝鮮人、移民、難民、結婚移住女性、移民背景を持つ子どもや若者など、社会的弱者に対するすべての差別が反聖書的であることを告白し、差別のない共生社会を目指す。また、学校における人権教育を推進するはたらきを継続する。

7. 両国 NCC は、過度に進んだ高齢化及び少子化問題と結びついている競争的な新自由主義社会構造によって発生した社会問題の解決を共同の課題とする。そのために、両国教会は特に、危機に陥った孤立青年たちとの出会いを模索する。更に、キリストの無条件な歓待と愛を実践する文化を醸成し、世代間の理解と繋がりを促進することで、お互いにケアしあう平和共同体を形成する。

2025 年 6 月 13 日  
日韓 NCC 両国協議会参加者一同